



アラームについて

この章では、Cisco Unified Serviceability のアラームについて説明します。次の項で構成されています。

- [アラームについて \(P.3-2\)](#)
- [アラームの設定 \(P.3-2\)](#)
- [アラーム定義 \(P.3-3\)](#)
- [アラーム情報の表示 \(P.3-4\)](#)
- [アラーム設定チェックリスト \(P.3-4\)](#)
- [参考情報 \(P.3-5\)](#)

アラームについて

Cisco Unified Serviceability のアラームを使用すると、システムの実行時の状況と状態を表示して、システムに関連する問題をトラブルシューティングできます。たとえば、Disaster Recovery System に関する問題を特定できます。アラームの情報には、説明と推奨処置、およびアプリケーション名、マシン名などが含まれているため、ローカルの Cisco Unified Communications Manager 以外で起こった問題をトラブルシューティングするときにも役立ちます。

アラーム インターフェイスを設定する際には、アラーム情報を複数の場所に送信することと、それぞれの場所に固有のアラーム イベント レベル (Debug から Emergency まで) を指定することができます。アラームは、Syslog Viewer (ローカル syslog)、Syslog ファイル (リモート syslog)、SDI トレース ログ ファイル、SDL トレース ログ ファイル (Cisco CallManager サービスおよび CTIManager サービスのみ)、またはすべての宛先に送信できます。あるサービスからアラームが発行されると、設定した場所 (およびアラーム定義のルーティング リストで指定された場所) に、アラーム インターフェイスからアラーム情報が送信されます (たとえば SDI トレースなど)。システムは、SNMP トラップの場合と同様にアラーム情報を転送することも、最終宛先 (ログ ファイルなど) へ書き込むこともできます。



ヒント

リモート Syslog サーバとして Cisco Unified Communications Manager サーバを指定しないでください。このサーバは他のサーバからの syslog メッセージを受信できません。

SDI トレース ログ ファイルまたは SDL トレース ログ ファイルに送信されるアラームを収集するには、Cisco Unified Communications Manager Real-Time Monitoring Tool (RTMT) で Trace and Log Central オプションを使用します。ローカル syslog に送信されるアラーム情報を表示するには、RTMT で SysLog Viewer を使用します。

アラームの設定

特定のノード上で Cisco Database Layer Monitor などのサービスにアラームを設定したり、クラスタ内のすべてのノード上で特定のサービスにアラームを設定できます。

サービスにアラームを設定するには、アラーム イベント レベル (Error など)、およびシステムがアラーム情報を送信する場所 (Syslog Viewer、つまりローカル syslog など) を選択します。イベント レベルを選択すると、収集されるアラームのタイプを絞り込み、Syslog ファイルおよびトレース ファイルが過負荷になるのを回避できます。アラーム設定とアラーム定義の関連付けの詳細については、P.3-3 の「アラーム定義」を参照してください。

アラーム定義

参照のために使用されるアラーム定義は、アラーム メッセージの内容を説明します。つまり、メッセージの意味とその回復方法を示します。アラームに関する情報を入手するには、[Alarm Definitions] ウィンドウを検索します。いずれかのサービス固有のアラーム定義をクリックすると、そのアラーム情報の説明（管理者が追加したユーザ定義のテキストを含む）と推奨処置が表示されます。

Cisco Unified Serviceability に表示されるアラームすべての定義を検索できます。問題のトラブルシューティングを支援するため、対応するカタログに存在する定義の内容には、アラーム名、記述、説明、推奨処置、重大度、パラメータ、モニタなどが含まれています。

システムでアラームが生成されるときにはアラーム情報内のアラーム定義名が使用されるので、アラームを特定できます。アラーム定義では、アラーム情報が送信される場所を指定するルーティングリストを表示できます。ルーティング リストには、次に示す場所を含めることができます。これらの場所は、[Alarm Configuration] ウィンドウで設定できる場所に対応しています。

- **SDL** : このオプションに対してアラームを有効にし、[Alarm Configuration] ウィンドウで適切なイベント レベルを指定すると、アラーム情報が SDL トレースに送信されます。
- **SDI** : このオプションに対してアラームを有効にし、[Alarm Configuration] ウィンドウで適切なイベント レベルを指定すると、アラーム情報が SDI トレースに送信されます。
- **Sys Log** : このオプションに対してアラームを有効にし、[Alarm Configuration] ウィンドウで適切なイベント レベルを指定し、リモート syslog サーバのサーバ名または IP アドレスを入力すると、アラーム情報がリモート syslog サーバに送信されます。
- **Event Log** : このオプションに対してアラームを有効にし、[Alarm Configuration] ウィンドウで適切なイベント レベルを指定すると、アラーム情報がローカル syslog に送信されます。情報は、Cisco Unified Communications Manager Real-Time Monitoring Tool (RTMT) の Syslog Viewer で表示できます。
- **Data Collector** : アラーム情報がリアルタイム情報システム (RIS Data Collector) に送信されず (アラート目的のみ)。[Alarm Configuration] ウィンドウでこのオプションを設定することはできません。
- **SNMP Traps** : SNMP トラップが生成されます。[Alarm Configuration] ウィンドウでこのオプションを設定することはできません。



ヒント

SNMP トラップの場所がルーティング リストに表示されている場合、アラーム情報は CCM MIB SNMP エージェントに転送されます。CCM MIB SNMP エージェントは、CISCO-CCM-MIB の定義に従って、適切なトラップを生成します。

[Alarm Configuration] ウィンドウで特定の場所に対して設定されたアラーム イベント レベルが、アラーム定義に一覧表示されている重大度以下の場合、アラームが送信されます。たとえば、アラーム定義の重大度が WARNING_ALARM であり、[Alarm Configuration] ウィンドウで特定の宛先に対するアラーム イベント レベルをそれより低いイベント レベルの Warning、Notice、Informational、または Debug として設定した場合、対応する宛先にアラームが送信されます。アラーム イベント レベルを Emergency、Alert、Critical、または Error として設定すると、対応する宛先にアラームが送信されません。

Cisco Unified Serviceability の各アラーム定義には、追加説明または推奨処置を含めることができます。管理者はすべて、追加された情報にアクセスできます。管理者は、[Alarm Details] ウィンドウに表示される [User Defined Text] ペインに直接情報を入力します。標準の水平方向および垂直方向のスクロールバーで、スクロールがサポートされています。Cisco Unified Serviceability によって情報がデータベースに追加されます。

アラーム情報の表示

アラーム情報を表示して、問題が存在するかどうか判断します。アラーム情報を表示するために使用する方法は、アラームの設定時に選択した宛先によって異なります。SDI トレース ログ ファイルまたは SDL トレース ログ ファイルに送信されるアラーム情報を表示するには、RTMT の Trace and Log Central オプションを使用するか、テキスト エディタを使用します。ローカル syslog に送信されるアラーム情報を表示するには、RTMT の SysLog Viewer を使用します。



ヒント

Cisco Unified Communications Manager の場合は、CiscoWorks2000 レポート ビューアを使用して、リモート syslog メッセージを表示することもできます。

アラーム設定チェックリスト

表 3-1 は、アラームを設定する手順の概要を示しています。

表 3-1 アラーム設定チェックリスト

設定手順	関連する作業と項目
ステップ 1 アラーム情報が必要なサーバおよびサービスを選択します。	<ul style="list-style-type: none"> アラームについて (P.3-2) サービスに対するアラームの設定 (P.4-1)
ステップ 2 アラームの宛先を選択します。 <ul style="list-style-type: none"> SDI ログには、すべてのサービスから送信できます (ただし、[Trace] でも設定する必要があります)。 SysLog Viewer には、すべてのサービスから送信できます。 SDL ログを使用できるのは、Cisco CallManager サービスと Cisco CTIManager サービスのみです。 syslog メッセージをリモート Syslog サーバに送信するには、リモート Syslog 宛先のチェックボックスをオンにし、ホスト名を指定します。 	<ul style="list-style-type: none"> サービスに対するアラームの設定 (P.4-1) アラームの設定 (P.4-4)
ステップ 3 アラーム イベント レベルを選択します。	<ul style="list-style-type: none"> サービスに対するアラームの設定 (P.4-1) アラームの設定 (P.4-4)
ステップ 4 必要に応じて、アラームに定義を追加します。	<ul style="list-style-type: none"> アラーム定義 (P.3-3) アラーム定義の表示および更新 (P.5-1)
ステップ 5 アラームの宛先として SDI トレース ファイルまたは SDL トレース ファイルを選択した場合、RTMT の Trace and Log Central オプションを使用してトレースを収集し、情報を表示します。	<i>Cisco Unified Communications Manager Real-Time Monitoring Tool アドミニストレーションガイド</i>
ステップ 6 アラームの宛先としてローカル syslog を選択した場合、RTMT の SysLog Viewer でアラーム情報を表示します。	<i>Cisco Unified Communications Manager Real-Time Monitoring Tool アドミニストレーションガイド</i>
ステップ 7 説明と推奨処置については、対応するアラーム定義を参照します。	アラーム定義の表示およびユーザ指定の記述の追加 (P.5-2)

参考情報

関連項目

- [サービスに対するアラームの設定 \(P.4-1\)](#)
- [アラーム定義の表示およびユーザ指定の記述の追加 \(P.5-2\)](#)
- [System Alarm Catalog の説明 \(P.5-3\)](#)
- [CallManager Alarm Catalog の説明 \(P.5-4\)](#)
- *Cisco Unified Communications Manager Real-Time Monitoring Tool* アドミニストレーションガイド

